

八代藩主 伊達斉村

仙台市博物館 学芸員 佐々木 徹



「短命藩主」のはじまり

伊達斉村は、安永三年（一七七四）、七代藩主伊達重村の次男として生まれました。天明七年（一七八七）、一四歳の時に江戸城で元服し、江戸幕府一代将軍・徳川家斉の一字を拝領して斉村と名乗ります。寛政二年（一七九〇）、病気を理由に隠居した重村に替わり、一七歳で八代藩主となります。

その後、斉村は、寛政八年に二三歳で病死してしまいます。仙台藩主としての在任期間はわずか六年。これは、三代藩主綱宗の在任期間二年に次ぐ短さです。二三歳という享年も、斉村の長男で九代藩主となる政千代（のちの周宗）の一四歳に次いで若い年齢です。実は斉村以降、一二代斉邦までのおよそ五〇年間、仙台藩では在任期間・享年ともに短命の藩主が続くのです。江戸時代後期の仙台藩、そして藩主斉村の特徴の一つに、こうした「短命藩主」であった側面が挙げられます。

道半ばの藩政改革

宝暦・天明の飢饉や幕府からの請負工事、父重村の官位昇進運動などにより、仙台藩は慢性的な財政難から抜け出せない状況に陥っていました。そのため、斉村の治世にも財政再建を柱とする藩政改革が進められました。

例えば、六二万石であった仙台藩を一五万石の規模で一〇年間運営するといった儉約が行われました。藩が中心となって領内米を買い上げ、市場へ流通させる従来の買米制を緩和して、家臣・商人・農民らによる米穀の流通を認め、彼らに礼金を上納させる制度も導入しています。領内の豊作などにより、新たな買米制で多額の利潤を得た時期もありました。その他にも、商業活動ができる範囲を広げる代わりに商人らへの課税水準を引き上げるといった施策も行われました。

また、飢饉で疲弊した農村の再建も大きな課題の一つでした。そこで郡村の暮らしぶりを豊かにすることを目的に、農村行政の合理化の促進や農民負担の軽減、買米制のさらなる改変策を打ち出しました。こうした農政改革は「寛政新法」と称されています。

しかし斉村は、亡くなる前年の寛政七年、新法を廃し、万事旧制に復す命令を出し、これまでの改革を撤回してしまいました。どうやら改革の多くは理念先行で、地域



枝柿図 伊達斉村画 仙台市博物館蔵
図中の「祝村」(のりむら)は、斉村と名乗る前の名前です。

社会や職務の実情を十分に検討せずに進められていったため、さまざまな混乱や不満が生じ、撤回せざるを得なくなったようです。

斉村の死と藩存続の危機

斉村が死を迎えたのは、寛政八年七月でした。この時、長男政千代は、わずか生後六カ月。しかも同年四月には、正室の興姫（鷹司氏誠子、信証院、享年二二歳）と重村が相次いで亡くなっています。父と妻を失い、幼児の息子を残し、さらに藩主としても道半ばで散る無念さは、いかばかりだったのでしょうか。その後、跡継ぎが正式に決まっていなかった仙台藩に断絶の危機が襲います。重村の正室観心院が後見の役割を果たすなか、政千代が幕府から正式に跡継ぎと認められる頃まで、斉村の死はしばらく秘匿されました。



谷風・小野川立ち合いの図 勝川春章画 仙台市博物館蔵
斉村は、仙台藩出身の力士谷風(左)をたびたび江戸の屋敷へ呼んでいます。相撲が好きだったのかもしれませんが。

※本稿では仙台市博物館の学術研究機関たる立場から歴史上の人物名に敬称を付していません。

ナスカ、ティワナク、そしてインカ帝国へ。アンデス文明5000年の歴史が今明かされる

特別展 古代アンデス文明展

会期：7月27日(金)～9月30日(日)

紀元前3,000年頃から16世紀のインカ帝国の滅亡まで、アンデス地域で盛衰を繰り返したナスカ、モチェ、シカンなど代表的な9つの文化を中心に、アンデス文明の全貌に迫ります。

【観覧料】一般・大学生1,500円(前売:1,300円)、高校生800円、小・中学生600円
※10名以上の団体は各100円引き。※キャンパスメンバーズ割引は当日券のみ対象。
【開館時間】9:00～16:45(入館は16:15まで)
【会期中の休館日】毎週月曜日(8/6、8/13、9/17、9/24は開館)、9/18(火)、9/25(火)

7/26(木)まで前売券好評発売中! 詳しくは 古代アンデス文明展 仙台 検索



トルコ石が象嵌された黄金の頭飾り(ティワナク文化) 先コロンプス期貴金属博物館/ポリビア・ラパス市所蔵



儀式用人物像カップ(チムー文化) リマ美術館所蔵

仙台市博物館 TEL:022-225-3074 ▶7月の休館日:毎週月曜日(16日は開館)、17日 SENDAI CITY MUSEUM 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) ▶ツイッター @sendai_shihaku